

■現行計画の体系

分野別の目標	基本的な方向
1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実	(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実
	(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実
	(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実
	(4) だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり
2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実	(1) 文化芸術関連の情報収集・整理
	(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信
	(3) 相談体制の整備・充実
3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり	(1) “楽しむ人”づくりの推進
	(2) “活動する人・団体”への支援
	(3) “伝える人”の育成と発掘の推進
	(4) 人材活用の推進
	(5) 文化的な資源の発掘と保存の推進

■新しい体系における課題認識(案)

分類	概要
鑑賞	文化芸術に親しむ区民の裾野を広げ、多くの人々が鑑賞・活動を楽しむようにする
	子どもから文化芸術に親しむ機会を設け、理解と親しみを育む
	鑑賞活動におけるバリアフリー・ノーマライゼーションを進める
活動	文化芸術活動の敷居を下げて、活動のきっかけをつくる
	サークルやコミュニティをつくり、相互に連携するネットワークをつくる
育成	資源を有効に活用する人材を育成し、事業・活動につなげる
共通	多様な文化芸術・歴史に関わる資源を文京区のユニークさとして打ち出す

○現行計画の施策体系を踏まえつつ、「鑑賞」「活動」という2つの行動の前提となる「1. だれもが文化芸術に親しむ環境づくり」を位置付けた上で、観賞と創造活動を含む「2. 文化芸術を創造する活動の支援」を設けました。

○現行計画の「3. 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり」に活用の視点も加え、「3. 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり」としました。

■新しい体系(案)

分野別の目標／基本的な方向	分科会での主なご意見	現行計画との対照
1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり		
(1)文化芸術への興味と関心を高める	○体験型の企画や入門講座を充実させる、 ○文化芸術のイベント(特徴的なもの、大々的に実施する) ○若者が参加する工夫 ○海外友好都市との文化交流 ○他分野とのコラボレーション	新規
(2)だれもが参加しやすい仕組みづくり	○子ども、高齢者、障害者、来訪者、外国人などへの対応 ○共通で対応できること、個別に対応すべきことに留意する	1-(4)
(3)分かりやすい情報提供と幅広い情報発信	○多様な主体が関わる情報の収集 ○多様な媒体を活用した情報発信 ○区民による草の根的な発信の仕組みづくり	2-(1) 2-(2)
2. 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援		
(1)観賞・参加・創造・成果発表の機会と場所の提供・充実	○観賞の質を高める学習や体験機会の創出 ○施設利用の利便性向上 ○発表機会の拡充 ○小中学生の活動、若者の活動支援 ○身近な施設の活用 ○参加しやすいプログラム、アウトリーチ	1-(1)、(2)
(2)文化芸術活動をする人・団体への支援	○指導者・コーディネーターの派遣 ○団体間の交流・情報交換 ○総合相談窓口の設置活用	2-(3) 3-(1)・(2)
(3)人材活用の推進	○人材育成、人材バンクの活用 ○区民プロデュースの推進 ○成果の還元 ○大学との連携	3-(3)・(4)
3. 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり		
(1)地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実	○歴史的地名・場所、文化財の活用 ○ガイドボランティア、まちあるき観光との連携	3-(5)
(2)伝統文化を伝える人材の育成と発掘の推進	○伝統文化に関わる人材の発掘、認定	3-(3)・(4)
(3)文化的な資源の発掘と保存の推進	○地域資源の発掘と収集、保存の推進、アーカイブ	3-(5)
(4)伝統文化に関する情報収集・整理と発信	○区の特徴に関する情報収集(大学、医療、坂道、文豪、銭湯、建築物、江戸文化、能など・・・) ○区の特徴(ナンバーワン)のPR	2-(1) 2-(2)